



Title	ケニア共和国 現地NGO「シロアムの園」
Author(s)	公文, 和子
Citation	目で見るWHO. 2021, 78, p. 14-15
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87514
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ケニア共和国 現地NGO「シロアムの園」



「シロアムの園」代表
公文 和子

北海道大学出身、クリスチャンの小児科医。2000年より海外で過ごし、2002年よりケニア。種々の仕事に関わった後、2015年「シロアムの園」を創設。

ケニアの障がいのある子どもたちとの出会い

私が JICA（国際協力機構）の感染症対策プロジェクトの専門家としてケニアに赴任したのは 2002 年。その後、西ケニアの田舎町で国際 NGO のエイズ・結核・マラリア感染症対策などの仕事を 4 年間、そして JICA の企画調査員として働く中で感じたことは、国際社会が「重点課題」としてとらえるのは、データにおいて改善が必要な分野であること、そして、それに向かって「競うように」「支援」している、ということでした。実際にそのようなことによって、ケニアにおいてもエイズ対策、母子保健など様々なことが大きく改善していくのを見ることができました。そのように MDGs（ミレニアム開発目標）時代を通して、感染率・死亡率などの指標をできるだけ改善していくことに携わってきましたが、2010 年、小さなクリニックで働き始め、患者さんの診療に携わっていく中で、特に障がい児との出会いを通して、データに表れない大切なこともあることを感じました。

新生児・乳児・5 歳未満の死亡率が様々な努力によって低下しても、その陰にはいまだに施設設備・人材などが整わないために出生時に低酸素脳症になり、またスクリーニングシステムがないことや適切な処置ができないために核黄疸を発症して脳性麻痺になる子どもたちがたくさんいます。その子どもたちの多くは必要な医療やリハビリを受けることができ

ず、社会保障や福祉で支えられることも殆どなく、貧困へとつながります。地域内では差別偏見の対象となり、精神的に抑圧され、家庭崩壊を起こすことも珍しくありません。発達障害の子どもたちも、適切な教育を受けることは殆どありません。その結果、多くの子どもたちやご家族が家の中に閉じこめられ、生きることの意味を見つけることができないでいます。

そのような子どもたちやご家族の必要が少しでも満たされ、笑顔で生きることができたら…そんな思いの中で、「シロアムの園」は創設されました。SDGs（持続可能な開発目標）が始まった 2015 年のことです。

シロアムの園とは

シロアムの園はケニアの現地 NGO で、2015 年より障がい児の療育事業を首都ナイロビ郊外で行っています。私たちが目指すのは障がいの有無に関わらず、ケニアで暮らす全ての人たちが、与えたいのちを喜び、社会に参加できるようになることです。そのために次のことを行います。

a) 年齢、性別、民族、階級などに関わらず、障がいがあり特別な支援を必要とする人々に神様が与えた賜物（才能）を見出し、育み、力強く生きていけるよう支援をします。

b) ケニアの社会が、障がいがあり特別な支援を必要とする人々やその家族のニーズに応じられるようになるために、それぞれの声を代弁したり、周囲の繋が

りを広げたりすることを通じて啓発活動を行ないます。

このようなビジョン・ミッションの基に 2020—2024 年の 5 か年戦略計画では下記のような 4 本柱で活動を行っています。

1. 施設サービスの提供

「療育」「障がい児ケア」という概念すら理解されない社会において、リハビリや特別支援教育の専門スタッフがそれまで受けてきた教育も非常に古いため、人材育成を行いながら、子どもたち一人ひとりに必要な質の高い医療・リハビリ・教育・心理サポートなどを提供するよう努めています。また、ご家族に対しても社会的・心理的支援をおこなっています。

2. 地域（コミュニティ）

地域が「障がい」を理解し、住みやすい社会になるよう、地域内の専門家の能力開発も含め働きかけていきます。（コロナ禍で現在行っていません）

3. 力づけ（エンパワメント）

差別・偏見や様々な問題の中で精神的抑圧や限られた社会参加（学校や医療へのアクセスも殆どない）、経済的問題を抱える子どもたちやご家族の自己肯定感向上につながるよう、精神的サポートやご家族の収入向上活動、地域の学校や医療施設への働きかけなどを行っています。将来的には職業訓練などに発展させる計画もあります。

4. 持続発展性と唱道（アドボカシー）

私たちの活動が社会の中で認識され、政策や社会の仕組みの改善につながるよう、働きかけます。



①脳性麻痺の子どもと関わる著者 ②グループ療法 ③コミュニティワーク ④作業療法
⑤集合写真（出典：①フォトグラファー 千葉康由氏 ②～⑤シロアムの園）

2021年7月現在、登録延べ人数98名、定期的通園児47名（年齢1-15歳）、登録待機児61名、障がいも脳性麻痺、発達障がい、先天性奇形など多岐にわたり、様々な子どもたちやご家族が通園しています。

SDGs時代に、そしてアフリカの高度経済成長期に『共生社会』を目指して

シロアムの園は現在、いつ追い出されるかわからない借家を利用して活動を行っています。2019年に新拠点となる土地を購入し、現在、2022年6月までの移転を目指して、建築のためのファンドレイジング実施中です。新拠点では、現在の活動の質的・量的改善を行っていくのみならず、地域に根差して活動を行

い、この拠点から全国に発信していけることを目指しています。

MDGs時代に様々な指標を改善し、近年高度経済成長を遂げているケニアですが、環境問題が進み、地域の助け合いなど、これまでの素晴らしい文化が失われつつある側面もあります。そのような中で、生産性や効率性のみが重視されるのではなく、本来人間が大切にすべき一人ひとりの命の質に向き合っていく社会を目指すことがSDGsだと思います。このような中で「誰一人取り残さない」の「誰一人」として障がい児・者を考えることにより、温かく優しい社会を作っていくことができると考えています。

シロアムの園はこれからも「一人ひとり」を大切にしていきながら、この「一人ひとり」と共に歩みつつ、この「一人

ひとり」が大切にされるケニアの社会を作っていくことに貢献していくことを目指します。

団体情報

<http://www.thegardenofsiloom.org/>
<https://www.facebook.com/thegardenofsiloom.org.jp>

クラウドファンディング情報

（2021年7月23日～11月19日）
<https://friendsofsiloom.net/events/>



団体情報



クラウドファンディング情報